

国・地方デジタル共通基盤推進連絡協議会

ワーキングチーム（第4回）



2025.5.15 一宮市総務部長 伊藤正樹



1 システム運用経費について

【背景】

- ・ 見積精査やチェックリスト提供等、引き続き専門的視点で自治体へのアドバイスを期待
- ・ 今後はガバクラ部分だけではなく、保守などのサービス部分についても見ていただける
とのことで、より一層の効果を期待
- ・ チェックリスト自体の活用には、専門的知識が必要となる部分もあり、難しい面もある
- ・ 自治体ではデジタル人材の確保、育成に努めているところ、その充実にはまだ時間がかかる状況。
チェックリストなどの活用にも時間が必要
- ・ 運用経費の問題は、根本的には標準化という国の施策であり、きちんと国が責任を持って進めていくことが必要

【要望】

- ・ **運用経費については、現状の経費から増加する分については、全額補助していただきたい**
- ・ **全自治体が補助の対象となる制度、仕組みとしていただきたい（不交付団体も含む）**

【提案】

- ・ ガバクラ利用料を標準化5年延長の期間は、全額、国費としていただきたい
(効果) ・自治体に早期の標準化へのインセンティブが生まれる
 - ・ 5年後に自治体負担となった際に、最大限のディスカウントを受けた状態とできる
 - ・ デジタル庁が関係することで、ベンダーへ運用改善点などを直接意見できる
 - ・ 利用料の支払い方法（Pay-easy）の準備期間の確保

参考：システム運用経費の変化について（一宮市の状況）

ハード関係

現 在

オンプレミス

サーバ機器

○オンプレ費用 **年45,885千円**

・統合仮想化基盤

標準化後

ガバメント
クラウド

AWS

○ガバクラ **年160,309千円**

・使用分に応じた従量課金
想定レート：1\$ = 153円

約 4 倍

増加要因

○ガバメントクラウド利用料

- ・セキュリティレベル（ISMAP）の向上や災害対策（遠隔地バックアップ）の強化などの機能の充実
- ・運用効率化にはある程度の時間が必要
- ・ボリュームディスカウント効果が不透明
（予算編成は14%割引で算出⇒今後デジタル庁が事業者と協議）
- ・ドル建て請求のため、為替変動の影響がある

ネットワーク

○特段の費用なし

○ガバクラ接続回線

年1,584千円

皆増

○ガバクラ接続回線

- ・専用の接続回線が必要
- ・LGWAN経由以外にも通信事業者の回線を利用する方法もあり

○ネットワーク運用管理

年8,483千円

○ガバクラ接続ネットワーク運用管理

- ・ガバクラ接続回線の監視や設定等の保守のための委託が必要

システム保守

○保守費用 **277,349千円**

- ・運用委託費用 SE運用管理
- ・パッケージ保守費
- ・ハード・ソフト保守費
- ・リモート保守費など

○システム利用料 **608,712千円**

- ・運用委託費用 SE運用管理
- ・システム利用料
- ・ハード・ソフト保守費
- ・リモート保守費など
- ・ガバクラサービス利用料

約 2 倍

2.4倍

○人的リソース不足によるSE単価の高騰や物価上昇

- ・ベンダー、パートナー会社及びパッケージ開発元の人的リソース不足

○買い切り型から利用型システムへ

- ・サービス維持のためのベンダー対応の増大（責任範囲の拡大）

○ガバクラ運用管理の対応

- ・システム利用に必要なライセンスの調達
- ・運用監視、クラウドサービスの管理
- ・システムのバックアップやOSパッチ適用等の作業

約 3 億2,000万円

約 7 億7,000万円

合計で約4億5,000万円の増加

2 標準化移行経費について

【背景】

- 標準化移行期限の5年間延長
- 本市においても、直近で特定移行支援システムとなるシステムが新たに発生するなど、状況変化が起こっている
- 毎年度、物価や人件費が高騰する傾向の中で、事前（数年前など）に移行費用を確定させることは困難
- 実際の移行時期に近いタイミングでなければ、必要額は確定しない

【要望】

- **今年度の補助上限額の通知については、早急に提示していただきたい**
- **移行経費調査については毎年度追加調査を実施し、最新の見積結果による、補助上限額の柔軟な見直しをしていただきたい**
- **2025年度末の標準化移行実現を目指し、問題や課題なども抱えながら全国の自治体に取り組んでいる。今年度の施策の充実も必要**

